

普及活動情勢報告（平成 31 年 3 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

GAPでミスは宝！ミスを改善につなげよう！ ～JA園芸部シンポジウム～



わかりやすい説明に引き込まれる参加者

2月21日、JA高知県れいほく営農経済センターでJA高知県れいほく園芸部のシンポジウムが開催され、生産者37人が参加しました。普及所は、会の開催及び運営を支援しました。

講師の安心農業株式会社の藤井淳生氏から、「GAPは事故やリスクをなくし、守備力を高めるためのツールで、点検項目を1つでも改善し、より良い農場にすることが大切である」と説明がありました。

生産者からは「農業機械を使うときは、自分もひやっとする場面があった。今後は作業を振り返ってリスクを減らしたい」という声が聞かれました。

普及所は、今回の研修が生かされるよう、環境点検やチェックシートを見直すなど、園芸部の活動を支援していきます。

生理障害対策指導 ～ミニパプリカ栽培講習会～



栽培講習会

2月25日、JA高知県土佐れいほくカラーピーマン部会はミニパプリカの栽培講習会を開催し、栽培予定者4人が参加しました。普及所からは、昨年発生した生理障害対策について指導しました。

参加者からは、「ハウスの妻面換気や遮熱資材の利用した高温対策を徹底し、障害果の発生を抑制しよう」という意見がありました。

普及所は、高温時期の安定生産につながるよう、部会活動を支援します。

嶺北地域の元気はまかせて ～嶺北地区農村女性リーダー協議会総会～



31年度の活動計画を話し合いました

2月27日に土佐町のさめうら荘で、嶺北地区農村女性リーダー12人が参加し総会を開催しました。普及所は総会の開催及び運営を支援しました。総会では平成30年度の活動を振り返り、31年度の活動計画の作成と役員改選を行いました。

30年度には安芸地区の女性リーダーとの交流、和歌山県における全国屈指の直販所や農福連携の視察、県域のはちきん農業大学等への参加など、積極的に活動しました。「31年度も和気あいあいと活動し、新たなリーダーの育成にも取り組みたい」との意見がありました。

普及所は、これからも嶺北地域を明るく牽引する、女性リーダーの活動を支援します。

土佐町の新しい名物に！
～土佐町農村集落活性化協議会第3回ダムカレー検討会～



3人前はある大きな
スペシャルカレー
～完食しました！～

3月4日、土佐町のさめうら荘で町やJA、普及所等の25人が参加し、土佐町農村集落活性化協議会が主催する第3回ダムカレー検討会が開催されました。土佐町農村集落活性化協議会では農業分野の活性化を目指し、地元農産物（土佐赤牛、三色ピーマン等）を利用した商品開発を検討しています。

今回、これまでの成果としてダムカレーを試食するとともに、商品化する上での改善点や名称について検討しました。参加者からは「女性には量が多い」「味に飽きないようにトッピングを付けては？」などの意見がありました。

普及所は、今後も6次産業化を推進するため関係機関と連携して新商品開発を支援していきます。

嶺北地区の農業生産の拠点を守ろう ～嶺北地区集出荷場整備に係る打合せ～



産地の戦略づくりが大切

3月6日、普及所で産地・流通支援課、JA、行政担当者、普及所職員15人が参加し、平成32年度に移転整備を予定しているJA集出荷場について打合せを行いました。

事前に普及所は関係機関と日程や内容を調整しました。当日、産地・流通支援課から活用できる補助事業の概要が説明され、具体的な取組内容や今後のスケジュールについて協議しました。

生産者の意向が反映された産地の戦略や構想を練り、事業計画に反映すること、無理のないスケジュールで推進すること、成果目標を達成するため、販売量をアップさせること等の重要事項を関係機関で共有しました。

普及所は、生産から販売・流通基盤の充実・強化を支援し、生産量・所得の向上を目指します。

担い手の確保にむけて ～米ナス部会作付け検討会～



作付け検討会

3月8日にJA高知県土佐れいほく米ナス部会は作付け検討会を開催し、生産者9人が参加しました。

今年度、米ナス生産者2人が指導農業士に認定されたことから、普及所は産地提案書に指導農業士や新規就農者を紹介する内容を加えることを提案しました。参加者からは「担い手を5～6人加え、販売額1億円を目指そう」という声があり、提案書を見直すことになりました。

普及所では、米ナスの他にもJA園芸部が活性化するように、担い手対策を支援します。

みんなでより良い農業にしよう！ ～水稻GAP勉強会を開催～



GAPを学ぶ水稻生産者

3月18日、普及所でGAPの勉強会を開催し、水稻生産者10人が参加しました。

普及所からは、GAPの内容、目的について説明するとともに、GAPの取組を自ら確認する「点検シート」について紹介しました。

GAPという言葉をはじめて聞いてとまどう生産者もいましたが、勉強会後には「記録することはとても大事なことだ」「まずは高知県版GAPから取組もう」など積極的な声が聞かれました。

今後普及所は、GAPの実践に当たり、現状の問題点に気づき、改善につながるような現地指導を実施します。

嶺北地域の未来に向けて協議 ～嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会～



予算案を協議するメンバー

3月19日、普及所で4町村、JA、本山農業公社、普及所で構成する嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会（以下、農業部会）を開催し、メンバー13人が出席しました。

普及所は、事務局として日程調整や資料を作成しました。

平成30年度事業実績と31年度事業計画案を協議し、町村の枠組みを超えて新規就農者確保等に取り組むことになりました。また、嶺北地域農業振興計画（3ヵ年計画）の改訂版を仕上げました。

普及所は、関係機関と連携して嶺北地域の農業の維持・発展を支援します。

経営の早期安定化に向けて ～新規就農者向け簿記講習会の開催～



パソコンを用いて説明

3月19日、大豊町役場で平成31年度の新規就農者を対象に簿記講習会を開催し、3人が参加しました。

普及所は町役場と連携し、講習会の開催を計画しました。初めての講習会では、簿記記帳の必要性、青色申告について情報を提供した後、実際に簿記ソフトを活用した記帳を演習しました。

講習会をとおして簿記記帳の必要性が理解され、参加者からは「複式簿記の勉強をしたい」との声が聞かれました。

普及所は、新規就農者の経営管理能力の向上と経営の早期安定化にむけて、今後も支援していきます。